

JENESYS2024 日本・ASEAN スポーツ×SDGs 交流の記録 (招へいプログラム)

1. プログラム概要

【目的・概要】

ASEAN 諸国^(注)及び東ティモールの高校生等 110 名が、2024 年 10 月 28 日から 11 月 4 日の間、スポーツ（サッカー）を通じた SDGs 達成に向けた日本の施策や取り組みについて理解を深めることを目的としたプログラムに参加しました。一行は東京都、福島県、千葉県、神奈川県を訪問し、日本と ASEAN 関係や J リーグにおける SDGs 活動の聴講、クラブチームにおける SDGs 活動に参加し、また、福島での学校体験等を行い、日本と ASEAN 諸国の相互理解と友好を深めました。

(注) インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス

【参加者】ASEAN 諸国及び東ティモールの高校生 合計 110 名

(内訳) 各国 10 名 (高校生 9 名、引率者 1 名)

【訪問地及び訪問者数】東京都 110 名、福島県 110 名、千葉県 30 名、神奈川県 80 名

【日程】

■ プレプログラム (オンライン事前学習) :

10 月 21 日 (月曜日) 【講義】「日本の社会と文化」

講師：JICE 日本理解講義講師 アンドラディ 久美 氏

10 月 21 日 (月曜日) 【来日前オリエンテーション】

来日までの指定期間 【課題学習 (動画配信)】「南三陸町からのメッセージ」「日本の施策：FOIP、SDGs パラスポーツ」、「日本語学習」

■ 招へいプログラム :

10 月 28 日 (月曜日) 羽田空港又は成田国際空港に到着



【オリエンテーション】

【講義】「J リーグ・SDGs に関する取り組みについて」

講師：公益社団法人日本プロサッカーリーグ

サステナビリティ部 執行役員 辻井 隆行 氏

10 月 29 日 (火曜日) 【表敬訪問・講義】「日本・ASEAN 関係」

講師：外務省アジア大洋州局 宮本 新吾 参事官

【講義】「福島県の概要」

講師：福島県庁国際課 小原 正嗣 課長

東京都から福島県へ移動

10月30日（水曜日）

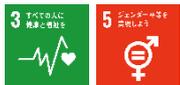


【視察】東日本大震災・原子力災害伝承館
【学校交流】福島県立ふたば未来学園高等学校
歓迎式、学校説明、授業体験、掃除体験

授業体験例：

- ・トップアスリート系列 : バドミントン、サッカー、野球
- ・アカデミック系列 : 武道・日本文化
グループディスカッション
- ・スペシャリスト系列 : 福祉（ユニバーサルスポーツ「ボッチャ」体験）
農業（さつまいも収穫・調理）

10月31日（木曜日）



【ワークショップ】報告会準備（帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
【スポーツ交流】いわきFC：ウォーキングサッカー教室
【文化体験】いわきFC：よさこいソーラン節、浴衣・着物着付け、書道

11月1日（金曜日）

福島県から東京都へ移動

【視察】関東圏のJリーグクラブ（4グループに分かれて訪問）



- ジェフユナイテッド市原・千葉（ブルネイ、マレーシア、フィリピン）
- ・スタジアム見学
- ・クラブ紹介、SDGs 関連の取り組み紹介
- ・サッカーにおける女性活躍についての講義
- ・ユース選手との交流



- 川崎フロンターレ（タイ、ベトナム、東ティモール）
- ・Anker フロンタウン生田 施設見学
- ・ポールウォーキング体験
- ・クラブ紹介、SDGs 関連の取り組みに関する講義



- 横浜F・マリノス（カンボジア、ラオス、ミャンマー）
- ・クラブ紹介
- ・スタジアムツアー
- ・横浜F・マリノス フトゥーロ（知的障がい者サッカーチーム）選手との交流



- 湘南ベルマーレ（インドネシア、シンガポール）
- ・クラブ紹介、“シャレン！”（Jリーグの社会連携活動）に関する講義
- ・海外でのクラブ展開について紹介
- ・ユース交流 湘南一ツ星高等学校（クラブパートナー）

11月2日（土曜日）

【視察】国立競技場・SDGs ブース、2024 Jリーグ YBC ルヴァンカップ決勝



11月3日（日曜日）

【ワークショップ】、【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表
【歓送会】

11月4日（月曜日）

羽田空港又は成田国際空港から帰国

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）

	
10月21日【講義】「日本の社会と文化」	10月21日【プレプログラム】

招へいプログラム

	
10月28日【講義】「Jリーグ・SDGsに関する取り組みについて」Jリーグ 辻井氏	10月29日【表敬訪問】外務省アジア大洋州局 宮本参事官
	
10月29日【講義】「福島県の概要」 福島県庁国際課 小原課長	10月30日【視察】 東日本大震災・原子力災害伝承館
	
10月30日【学校交流】福島県立ふたば未来学園 高等学校 さつまいも収穫体験	10月30日【学校交流】福島県立ふたば未来学園 高等学校 掃除体験
	
10月30日【学校交流】福島県立ふたば未来学園 高等学校 ボッチャ体験	10月30日【学校交流】福島県立ふたば未来学園 高等学校 野球体験



10月30日【学校交流】福島県立ふたば未来学園高等学校 記念撮影



10月31日【ウォーキングサッカー体験】
いわきFC



10月31日【文化体験】
浴衣・着物着付け



11月1日【ユース選手との交流】
ジェフユナイテッド市原・千葉



11月1日【ボールウォーキング体験】
川崎フロンターレ



11月1日【選手たちとの交流】横浜F・マリノス
フットーロ（知的障がい者サッカーチーム）



11月1日【ユース交流】湘南ベルマーレ ユース
交流（湘南一ツ星高等学院）



11月2日【視察】国立競技場 SDGs ブース



11月2日【視察】
2024 Jリーグ YBC ルヴァンカップ決勝

	
【報告会】	11月3日【歓送会】

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ シンガポール 高校生

ウォーキングサッカーを通じて、SDGsについて多くのことを学びました。年齢・身体能力に関係なく、誰にでも合うように、元々あるスポーツの簡略化されたバージョンを用意することで、スポーツと健康的なライフスタイルを促進する方法があることを学びました。

◆ タイ 高校生

SDGsの目標達成には、世代や国を超えた協力が不可欠であることを、スポーツを通して学びました。今後はさらに異文化理解を深め、互いに協力し、目標を共有することで、より明るい未来に向かって共に進んでいければと思います。

◆ インドネシア 高校生

ふたば未来学園での交流では、互いの文化を学び合い、ユニバーサルスポーツであるポッチャを通して親睦を深めることができ、貴重な経験となりました。ポッチャは非常に面白いスポーツで、インドネシアでも広めたいと考えています。SNSを通じて今後も交流を続けたいと思います。東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れ、その惨状と復興の歩みを目の当たりにし、深く感銘を受けました。地震、津波、そして原子力発電所事故という複合災害に見舞われながらも、日本の人々が不屈の精神で立ち上がり、復興を成し遂げたことに、心から敬意を表します。

◆ ミャンマー 高校生

東京では、持続可能な開発目標（SDGs）について議論しました。日本の持続可能性へのアプローチや、これらの目標が世界的にどのようにつながっているかを学ぶのは刺激的でした。さらに、Jリーグのルヴァンカップ決勝を観戦するすばらしい機会もありました。両チームのサポーターの興奮と情熱は忘れられないものでした。

◆ 東ティモール 高校生

いわきFCとの交流、文化体験を通して、多くのことを学ぶことができました。サッカーが苦手な私でも楽しめるウォーキングフットボールから始まり、着物を着る貴重な経験、習字に挑戦するなど、幅広い活動に参加できました。また、よさこいソーラン節は、活気に満ちた踊りで、参加者全員が笑顔になり、一体感を味わえたすばらしい時間でした。これらの経験は、私にとって一生忘れられない思い出となりました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ いわきFC 担当者

誰でも参加できることが特徴のウォーキングサッカーや、異文化を受け入れる・楽しむといった、文

化体験を通じて、SDGs を学んでもらうことができ良かったです。日本文化は海外の方からも人気ということが再確認できました。また、Jリーグはアジアを市場に捉え始めている中で、なかなか地方だと国際的な交流が少なく、ASEAN 地域の方と交流する機会をいただいたことは刺激的な感覚になり、とても有意義でした。

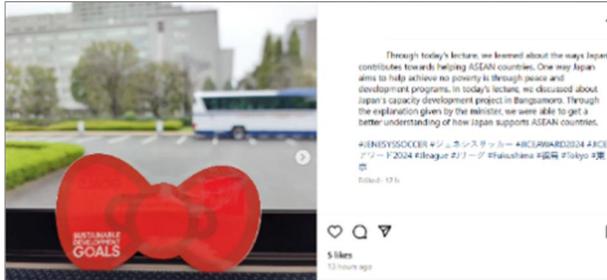
◆ 湘南ベルマーレ 交流学生

インドネシア、シンガポールの方達とお話できる機会は滅多にないので、とても貴重な体験をする事ができました。言語の壁があったとしても、お互い翻訳アプリを使って楽しくお話することができ、外国の方々へのイメージがガラッと変わりました。これを機に英語を喋れるようになりたいですし、海外へも行ってみたいくなりました。

◆ 福島県立ふたば未来学園高等学校 教師

ASEAN 諸国の生徒や日本人生徒にとって英語が母語ではない生徒が多い中で、お互いに自国の文化や自分の考えを相手に伝えようと努力している姿が印象的でした。海外交流というと欧米諸国との交流というイメージが強いですが、欧米諸国の方々との交流では経験できない学びが多かったように思いました。今回の経験は、生徒に国際交流を促す立場である私にとっても貴重な経験になりました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

 <p>Hi friends!!</p> <p>On the first day of the program, we learn about the J. League and activities related to SDGs, from Mr. Takayuki Tsujii (Corporate Executive Officer J. League)</p> <p>J. League is an international football sustainable activity that addresses action against climate change. This topic focuses on why does football exist? because the earth is healthy, people are healthy, the environment is healthy, so that's why the J-league must take action regarding climate change in the future which is sustainable activities for the future.</p> <p>#JENESYS_ASEAN #JLEAGUE</p>	 <p>Through today's lecture, we learned about the ways Japan contributes towards helping ASEAN countries. One way Japan aims to help achieve no poverty is through peace and development programs. In today's lecture, we discussed about Japan's capacity development project in Bangladesh. Through the explanation given by the minister, we were able to get a better understanding of how Japan supports ASEAN countries.</p> <p>#JENESYSOCCER #Jリーグ #ASEAN #JLEAGUE #Tokyo #東</p> <p>5 likes 13 hours ago</p>
<p>2024年10月28日 (Instagram)</p> <p>東ティモール高校生：辻井隆行さん（Jリーグ執行役員）から、Jリーグの概要とSDGsに関する活動を学びました。Jリーグは、気候変動対策に取り組み、国際的に持続可能なサッカー活動を行っています。「なぜサッカーが存在するのか」に焦点を当てたお話がありました。地球が健康で、人々が健康で、環境が健康だからサッカーが成り立つ、だからJリーグは気候変動対策に取り組み、未来に向けて持続的な活動を行っているそうです。</p>	<p>2024年10月29日 (Instagram)</p> <p>シンガポール高校生：本日の講義を通じて、日本がASEAN諸国を支援する方法について学びました。日本は平和と開発プログラムを通じて「貧困をなくそう」という目標の達成を目指しています。本日の講義では、バンサモロにおける日本の能力開発プロジェクトについて学びました。</p>

3rd day-30/10/2024 On the morning of the 3rd day, we went to the Great East Japan Earthquake and Nuclear Disaster Memorial Museum. This is a major change in Fukushima that has turned it into a ghost town. And it made me realize that natural disasters cannot wait for humans. They will come without us knowing or even if we know, it is quite difficult to do anything. After that we had lunch and then we went to school in Japan Futaba Future high school. After we arrived at the school, the students in the school welcomed us warmly and explained about their school and what it has to offer. After that, two students responsible for Laos took us on a tour around the school. After that it was time for sports where the Laos team played against Timor-Leste which made me very excited to meet new friends and the sport we played was baseball which was the first sport I ever played and I was very happy. Then there was a Japanese professional male student who was involved in baseball who taught us and we played games together until around 4:00 PM, after which we went back to the hotel. #Jenesys2024 #Fukushima



2024年10月30日 (Facebook 等)

ラオス高校生：東日本大震災・原子力災害伝承館へ行きました。大地震は、福島にとって、町がゴーストタウン化してしまうような出来事でした。自然災害は人間を待ってくれない、突然やってくるということを実感しました。例え分かっていたとしても事前に行動することはとても難しいと思いました。午後からは、ふたば未来学園に行きました。生徒たちが本当に温かく迎えてくれ、校内を案内、説明してくれました。そして、野球部のメンバーと東ティモールの仲間と一緒に試合をしました。私たちは、初めて野球をしたのですが、日本の生徒達が教えてくれました。新しい友達に出会えてとても感動しました。

2024年10月30日 (Instagram)

カンボジア高校生：ふたば未来学園高等学校の皆さま、この度は心温まる歓迎とおもてなしをありがとうございました。とても素晴らしい経験をさせていただきました。カンボジアや ASEAN 諸国に対して、生徒の皆さんが示してくださった優しさと敬意に深く感動しました。日本の農業や持続可能な開発目標 (SDGs) への取り組みについて学ぶことができ、大変貴重な時間を過ごしました。この交流を実現してくださった JENESYS プログラムにも感謝申し上げます。持続可能な実践を直接学び体験することで、農業への理解と感謝の気持ちがさらに深まりました。学び、共有し、つながる機会をいただけたことに感謝するとともに、今後もこのつながりを深めていきたいと思います。



2024年10月30日 (Instagram)

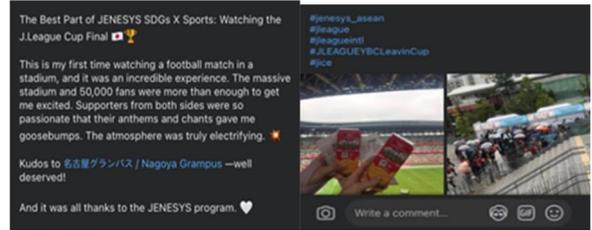
インドネシア高校生：東日本大震災・原子力災害伝承館を訪問しました。こんな状況を運命として受け入れただけでなく、見事な復興を遂げました。これはとても素晴らしいことです。

2024年10月30日 (Instagram)

ブルネイ高校生：東日本大震災・原子力災害伝承館を訪問することでいかに忍耐強く人々が復興に力を注いできたか分かりました。地元の人々や行政が不屈の精神で復興に尽力してきたこと、また過去の経験を引き継いでいくことの大切さを学びました。



2024年10月30日 (Instagram)
 マレーシア高校生：今日はたくさんのアクティビティがありました。まず、他の国々の参加者とウォーキングフットボールをしました。次に、書道をやってみました。日本語は難しいけれど、頑張っていました。それから、どっこいしょ踊り(ソーラン節)もやってみてとても楽しかったです。最後に、日本の伝統的な服(着物)を着ました。着てみるととても快適でした。私が今、経験していることを母国の友人たちに伝えたいと思います。



2024年10月31日 (Instagram)
 ミャンマー高校生：JENESYS SDGs×スポーツのハイライトは、Jリーグ YBC ルヴァンカップ決勝戦観戦でした。スタジアムでのサッカー観戦は、私にとって初めての経験でした。巨大なスタジアムと6万人以上のサッカーファンに私はとても興奮しました。両チームのサポーターは情熱的で、彼らの応援歌には鳥肌が立ちました。本当に衝撃的で感動的な雰囲気でした。名古屋グランパスを称賛します。優勝に相応しいチームです。



2024年10月31日 (Instagram)
 フィリピン高校生：双葉町の人たちの悲劇的な(震災の)歴史と経験を学ぶ機会があり、感謝しています。津波、地震、原発事故によって引き起こされた悲劇的な災害から復興への絶え間ない努力により、学校、道路、診療所、企業などのインフラが再建され、人々が再び生活できるようになっていました。また、ふたば未来高校の学生や職員の皆さんのフレンドリーさとの熱意で、私たちはこの学校の生徒になったようでした。この学校の教室やサッカー文化を知り、強いつながりと仲間意識を感じる事ができて感激しています。



2024年10月31日 (Instagram)
 シンガポール高校生：観光客が体験できないような伝統文化(浴衣・書道)を学ぶことができました。北海道発祥の「ソーラン節」を踊ったことは特に印象的でした。漁師たちはニシン漁でこの歌に合わせて踊り、未来の幸運と富を祈願します。また、ウォーキングサッカーがどのようにして複数のSDGsを促進しているかを学びました。走ることが禁止され、障がい者や性別、人種、宗教の異なる人々が平等に一緒にプレーすることができ、不平等を減らすことができます。さらに、健康増進、ジェンダー平等、経済成長などの他のSDGsも促進します。これらの体験を通じて、より多くのSDGs活動を推進したいと思いました。

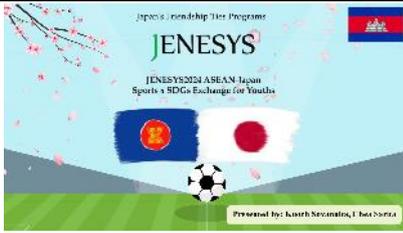
<p>2024年10月31日（福島民報）</p> <p>「海外の高校生ら浜通り訪れ交流 復興の現状学ぶ」東日本大震災・原子力災害伝承館への視察、ふたば未来学園との交流について紹介。</p>	<p>2024年11月6日（KFB 福島放送）</p> <p>「海外の高校生がサッカーや日本文化を体験（福島）」いわきFCでのウォーキングサッカー、文化体験を通じた交流について紹介。</p>

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都、福島県、千葉県、神奈川県 全11グループ発表

<p>ブルネイ</p>		
<p>【成果の発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の高校では、ブルネイと比べて体育の授業の回数が多く、さらに多くの生徒が部活動に励んでおり、感銘を受けました。また、清掃を生徒自身で行い、学校の清潔さを保つという考え方は、ぜひ見習うべきだと思いました。 日本では、太陽光発電や風力発電などのクリーンエネルギーが奨励されており、Jヴィレッジではほとんどの電気にセンサーが設置されているなど、節電への意識が高いことを学びました。 JクラブやJリーグが、古い服や本を回収してゴミの削減やリサイクルに貢献する素晴らしい活動を行っていることを知り、ぜひ自国にも取り入れたいと思いました。 <p>【アクション・プラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本で学んだSDGs関連活動をブルネイで実施します。例：貧困への対応やゴミ削減・リサイクル 健康促進や運動の重要性、栄養学について広報します。例：ウォーキングフットボール行事開催（若者男女や障がいのある方も含め、さまざまな人が運動できる場を提供する活動） イベントを広く周知するため、参加者や自分たちでSNSを活用した宣伝も行います。 		

カンボジア



ACTION PLAN

SEED THE FUTURE: A WORKSHOP TO NURTURE SDGs ACTIVISTS

WHAT:	Futuristic programs, E-Game
WHO:	Jenesys 2024 Cambodia Participants
WHOM:	Future athletes
WHEN:	Feb. 2024
WHERE:	Preah Sihanouk High School
HOW:	→ Activities of Jenesys 2024 Cambodia, including Jenesys Club, Culture Sharing, Branding Event

EXPECTED OUTCOME

WHAT WE WANT TO CONVEY TO OUR LISTENERS:
 Deeper understanding of SDGs
 What our results students will be able to do
 Personal experience of understanding SDGs

Students more interested in Japanese Culture and Language
 The students will be able to learn more about Japanese culture and language in their own country

Cambridge students will be more motivated to apply SDGs to one of their chosen projects to help solve a real-world problem and demonstrate their understanding of SDGs in their own lives.
 Students are given opportunities to study in Japan
 For those who wish to visit Japan, they will be able to learn more about Japan's culture and language in their own country

【成果の発表】

- ・日本では、整備されたインフラや徹底したゴミの分別によるリサイクルなど、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが進んでおり、深く感銘を受けました。
- ・気候変動対策、質の高い教育、健康、産業、エネルギー、海洋環境など、多岐にわたる SDGs の目標について学びを深めました。特に、日本の再生可能エネルギーの活用状況や教育分野での SDGs の導入など、具体的な取り組みから多くを学びました。

【アクション・プラン】

- ・カンボジアの高校生が、SDGs に対する理解を深め、関心を高めるきっかけを作るトークイベントを開催します。
- ・日本文化や日本語の魅力の再発見、学習意欲の向上を図るため、訪日体験動画を作成し紹介するとともに、よさこいソーラン節の実演を行います。

インドネシア



【成果の発表】

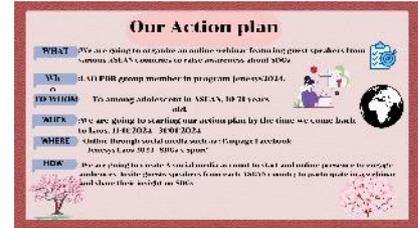
- ・日本は街が非常に清潔で、人々が環境問題に関心を持っていると聞いていましたが、実際に訪れ、学校での清掃体験などを通じてその意識の高さに感心しました。
- ・福島県での震災・原発事故の深刻さを目の当たりにし、除染作業の規模の大きさに驚きました。除染された土が保管されている施設で、放射能汚染の長期的な影響について改めて考えさせられました。
- ・Jリーグは、サッカーを通じて持続可能な社会の実現を目指し、再生可能エネルギーの利用促進や地域社会との連携など、多岐にわたる SDGs の目標達成に向けて活動していました。これらの取り組みから、スポーツが地域社会に与える影響力の大きさを学びました。

例：湘南ベルマーレは、地元の小学生を対象とした環境教育プログラムの実施、地域住民と連携した清掃活動を行うなど、地域社会との共生を重視した取り組みを進めています。いわき FC は、ウォーキングフットボールの普及を通じて、性別や年齢に関係なく誰もが楽しめる機会を提供しています。

【アクション・プラン】

- ・私たちが所属する高校で、今回の（プログラムを通じた）学びを発表します。
- ・年齢や性別を問わず楽しめるスポーツであるウォーキングサッカーとボッチャの大会を開催します。

ラオス



【成果の発表】

- ・日本ではゴミの分別やバリアフリーなど、生活のあらゆる場面で清潔さや秩序が重視されていました。特に、ラオスではあまり見られない障がい者への配慮が行き届いた環境に感心しました。
- ・横浜F・マリノスは、サッカーで地域住民の健康増進を図っており、深い感銘を受けました。
- ・福島県では、東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れ、大津波で街が壊滅的な被害を受け、原発事故で人々が避難を余儀なくされた様子を目の当たりにし、被災地の現状を深く理解することができました。ふたば未来学園では、生徒たちが主体的に学習に取り組んでいる姿や、国際交流に力を入れている様子に感銘を受けました。生徒たちとの交流を通して友情を深めることができました。
- ・いわきFCのウォーキングサッカーや文化体験では、参加者同士の絆を深めることができました。
- ・これら（クラブチーム）の活動は、誰もが参加できる身近なものであり、経済的な背景や性別に関係なく誰もがスポーツを楽しむ機会を提供するため、SDGsの「貧困をなくす」や「ジェンダー平等」の目標にも貢献していることを学びました。

【アクション・プラン】

- ・ASEAN地域の若者を対象に、オンライン・ウェビナーを開催します。ASEANの若者たちの間でSDGsへの理解を深め、共に持続可能な未来について考えていきます。

マレーシア



【成果の発表】

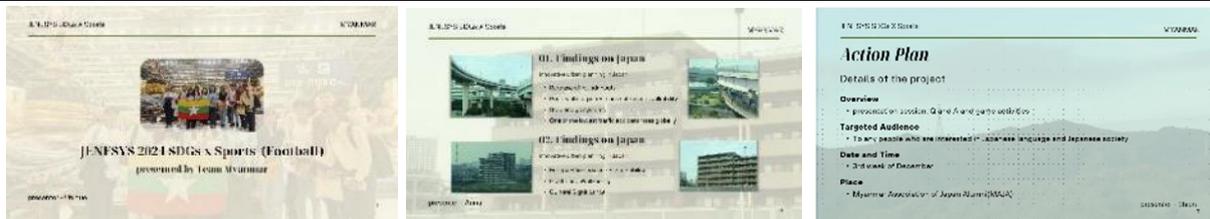
- ・日本では、想像以上に伝統文化が生活の中に根付いており、子どもたちが幼い頃からそれらに触れる機会が多いことに深く感心しました。
- ・対人関係や仕事において規律と責任感が重視されていることは知っていましたが、日常生活のあらゆる場面でその意識の高さを感じました。
- ・日本の先端技術がセキュリティシステムなどに活用され、安全な社会の実現に貢献していることを知り、驚きました。
- ・食文化についても、寿司やラーメンだけでなく、多種多様な地域の郷土料理が存在し、食に対する日本人の高い関心を深く感じることができました。
- ・Jリーグは、スポーツを通じた地域社会の活性化だけでなく、環境問題への取り組みも積極的に行っていることを学びました。地域住民との連携を深め、試合会場でのゴミ削減や再生可能エネルギーの導入など、具体的なアクションを通じてSDGsの目標達成に貢献しています。行政やNGOとの連携

により、その取り組みはさらに広がりを見せており、スポーツの持つ力を改めて実感しました。

【アクション・プラン】

- ・セランゴール・スポーツ・スクールで高校生を対象として、「ゴミ排出ゼロの生活」をテーマにするワークショップを開催し、若者が廃棄物を減らすためのヒントを得られる機会とします。

ミャンマー



【成果の発表】

- ・日本は、先進的な都市計画と交通システムを導入し、歩行者優先や交通ルールの徹底により、世界でも有数の交通安全を実現しています。
- ・建物はエネルギー効率、環境への配慮、耐震性、そして人々の健康と福祉を重視した設計がされており、同時に文化的な価値も継承されています。
- ・障がい者や乳幼児、子どもたちに対するバリアフリー設計も進んでおり、誰もが快適に暮らせる環境が整っています。
- ・日本は、WE リーグをはじめとする女子スポーツの振興が進み、ジェンダー平等の実現に向けて大きな一歩を踏み出しています。
- ・学校教育においてもスポーツを通じた健康増進が重視されています。
- ・Jリーグをはじめとするさまざまなスポーツ団体は、気候変動対策の一環として、リサイクルやプラスチック削減など、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

【アクション・プラン】

- ・ミャンマー日本留学生 OB 協会 (MAJA) において、日本や日本語に興味を持つミャンマーの若者を対象に講演会を開催します。日本での経験を活かし、ウォーキングフットボールをはじめとする日本のスポーツ文化や日本の生活について紹介します。ゲームや質疑応答を通じて日本への理解を促進するとともに、さらに日本への関心を高めていきたいと考えています。

フィリピン



【成果の発表】

- ・福島県では、複合災害からの復興は持続することがなによりも大切であることを学びました。
- ・日本の高度な技術、特に公共交通機関の整備が、二酸化炭素排出量の削減に大きく貢献し、地球環境保全につながっていることを実感しました。
- ・大きな試合があるたびに食品、家電、衣服を持ち寄ってロスを最小限に抑える努力や、サッカークラブのある地域での清掃活動、女子選手育成への取り組みなど、スポーツがどのように SDGs の推進に貢献できるのか、事例を通じて学ぶことができました。

【アクション・プラン】

- ・ラグナ及びアラバン地区で、子どもたちを対象に、サッカーの基本的な動きやテクニックを教えるクリニックを開催します。同時に、気候変動、ゴミの分別収集、3R（リデュース・リユース・リサイクル）などについての意識を高めてもらうため、地域の清掃活動にも参加してもらう活動を考えています。

シンガポール

<p>1. Discovering Japanese Resilience</p> <ul style="list-style-type: none"> Met a student named [redacted] Had the desire to restore Fukushima's reputation "Restore Fukushima to its former glory" Organised traditional Bon Dance festival to invite people from outside Fukushima to experience Fukushima Felt that there was a negative reputation of Fukushima Further extended by the evidence from the Earthquake museum that we visited in Futaba 	<p>3. Sports has the POWER to educate youth</p> <ul style="list-style-type: none"> Students in Japan often play many different sports and physical education is a core part of their curriculum Training/matches develops students soft skills and other values Sports have a way of helping students level up and have access to opportunities SDG: Quality Education & Reduced Inequalities  	<p>2. Walking Soccer</p> <ul style="list-style-type: none"> Singapore has the same issue of aging population as Japan Our walking soccer experience gave us the idea that we could implement it in our school for students who are less active Promote a healthy lifestyle through having fun Allows people of all physical abilities to try out sports 
--	--	--

【成果の発表】

- ・福島県では、災害の惨状について学び、ふたば未来学園の学生から、現在も続いている復興への熱意とエネルギーを強く感じました。
- ・スポーツが SDGs と深く関連しているとは考えもしませんでした。スポーツがすべての人々にとって重要であり、若者の価値観の育成に役立ち、SDGs 推進の手段となることを学びました。

【アクション・プラン】

- ・学校内で、スポーツが SDGs の達成に貢献する可能性を共有し、ウォーキングサッカーを体験する機会を設け、運動不足の生徒に運動の機会を提供します。
- ・クラス対抗のリサイクルコンテストを開催し、生徒たちの環境に対する意識を高めます。

タイ

	<p>Action Plan</p> <p>What An identification and discussion forum on sport activities in Bangkok with the UN SDG's regarding opportunity for participants (student athletes and teachers) to see.</p> <p>Who If it is possible to utilize on-line platform to broadcast our events (live) & encourage by a group of Thai students participating in the JENESYS 2024 youth exchange program.</p>	<p>Action Plan</p> <p>How</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Focus on the topic on our event in power. 2. Use video and audio to bring a social media to our school page. 3. Take it to the next level by creating a club at our school. 4. Track all the progress of the activity through our activities.
---	--	---

【成果の発表】

- ・日本は、道にゴミ一つ落ちていないほど清潔で、その美しさは想像をはるかに超えていました。
- ・日本人はシャワーを浴びる際にも順番を待つなど、その規律正しい行動に感銘を受けました。
- ・日本人は、時間厳守の意識も私たちの国と比べて非常に高いと感じました。
- ・サッカークラブは、地域住民と協力し、SDGs の達成に向けて積極的に取り組んでいることを学びました。日本がスポーツを通じた持続可能な社会の実現を目指していることに感銘を受けました。

【アクション・プラン】

- ・学校で SDGs に関するプレゼンテーションや討論会を実施します。
- ・学校のホームページや SNS を活用して、子どもたちや若者に学んだことを発信し、彼らの理解度や学校の環境改善状況を確認します。

ベトナム



【成果の発表】

- ・ 来日前に抱いていた日本人、教育、ライフスタイル、イデオロギーに関するイメージと、実際の日本での体験とのギャップを参加者同士で共有することで、より深い理解を得ることができました。
- ・ 福島県を訪問し、東日本大震災・原子力災害伝承館で説明を受けることで、わずか 10 数年という短い期間での復興のスピードに感銘を受けました。
- ・ 学校交流では、多くの貴重な思い出ができ、同世代の日本人との交流は、貴重な経験になりました。
- ・ JリーグのSDGsに関する講義では、各地域のサッカークラブが地元住民と協力しながら、スポーツを通じてSDGsの目標達成に取り組んでいることを学びました。

【アクション・プラン】

- ・ ベトナム北東部ハ・ザン省メオ・ヴァック郡に住む 6 歳から 12 歳の貧困層の子どもたちを対象に、サッカー教室を開催します。サッカーボールや用具を寄贈し、現地の人々やベトナムサッカー連盟の協力を得ながら、子どもたちにサッカーの楽しさを伝えていきます。

東ティモール



【成果の発表】

- ・ 日本については「桜、寿司、富士山」というありきたりなイメージしか持っていませんでしたが、来日して、日本人が仕事熱心で、他人を敬い、規律を守る人々であること、伝統と最新技術が融合した国であること、そして 13 年前の大震災に苦しむ人々がまだ多くいる中で復興が着実に進んでいることを学びました。
- ・ スポーツと SDGs は無関係だと思っていましたが、日本では Jリーグやサッカークラブが関係機関と協力し、地域の意識向上や二酸化炭素排出量削減に積極的に取り組んでいることを知り、スポーツが人々の健康に多くの恩恵をもたらすことを学びました。

【アクション・プラン】

- ・ 大使館、高校、地域の集まりなどで、日本やスポーツにおける SDGs について報告やセミナーを開きたいと思います。
- ・ 高校の校庭をきれいにするプロジェクトを始め、環境美化に努めたいと思います。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）

協力：公益社団法人日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）